

明海大学不動産学部

# 不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第411回

第1の特徴である金色の外観は、京都市北区金閣寺町にある鹿苑寺（金閣寺）を連想させる。金閣は室町時代の北山文化を代表する建物として有名な3層の楼閣建築である。

東京都千代田区は23区の中でも最も小さく、6万7145人の居住者

数は90万人を超す世田谷区の14分の1程度である。一方、区内には皇居や国会議事堂、省庁、

最高裁判所など国の機関が集積する。日本の

首都機能を担うことから、都市空間は多様性に富み、街を散策すると新しい発見がある。

神田錦町を散策中に面白いデザインの建物を見つけた。黄金に輝く外観とモノグラムデザインが目を引く建物である（写真）。

## 小さな模様の大きな表現力

# 和テイストと気品を表現

### 【教員のコメント】

感じる不思議なインパクトがある。それは第2の特徴である、モノグラムデザインとも関係している。モ

ノグラムデザインは文字やマークを敷き詰めて模様のように見える手法である。フランスの高級ブランドとしてモノグラムデザインは文字やマークを多用する。モノグラムデザインは単純なパターンの繰り返しながら、落ち着きや広がりや、気品を感

じる点に特徴があり、この建物の外観にもその特徴がよく表れている。

今回見つけた建物は「千代田区の金閣」と言ってもよい美しさだけでなく、どこか「和のティエスト」を

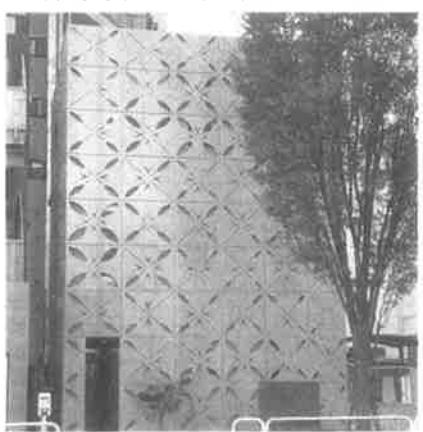
して有名な3層の楼閣建築である。わびさびを基調とする日本では異色の建物だが、国を代表する建物として内外から観光客が訪れる。

松の盆栽が置かれている。その枝ぶりと壁面を開けた穴の形に共通性がある。更に、穴は木の葉にも竹の葉

のようにも見え、壁面いっぱいに大きさの異なる葉が群生しながら、植物が生い茂った自然や宇宙を表現しているようだ。硬い金属が柔らかく見え、金閣に通じる和のティエストも感じる。

第3の特徴は、外壁がダブルスキ

ンになっていることだ。夜はどのように見えるか気になり再訪すると、大きさの違う穴から出る光は木漏れ日のように、柔らかい変化が印象的な夜景であった。小さな建物ながら、不動産事業の構築力が必要なことに新鮮さがある。実現には卓越した加え、小建築ゆえに大きな存在感が不可欠となる。シンプルさに饒舌さ



モノグラムデザインが目を引く  
外観



藤原 龍男  
不動産学部3年